

アベノ洋風長屋

所在地：大阪市阿倍野区 建築年：1929年（昭和4年） リノベーション年：2018年（平成30年） 設計者：連・建築舎 伴 現太



阿倍野区・昭和町界隈には昭和初期の大大阪時代に数多くの長屋が建てられました。このアベノ洋風長屋もその時代に建てられた三角屋根が特徴的な5軒長屋です。

近年、この建物が建つ昭和町周辺は、民間主体のエリアマネジメントが広がっており、個性豊かな小商いの店が増えています。この層をターゲットとして、老朽化して長年、空家となっていた長屋を店舗兼住居へとリノベーションしました。蟻害がひどく腐朽した土台や柱を入れ替え、耐力壁の増設。ファサードのルーパバルコニーや三角屋根を再生し、草屋根を新たに設けて愛らしい雰囲気をつくっています。

計画には様々な入居希望者に対応するための工夫を施しました。戸境壁（界壁）の位置を変更して大中小の3パターンの区画割りとして、お店の規模や賃料設定に幅を持たせています。工事中からテナント募集も行い現場見学会などしながら、完成時には個性豊かな店主が集まりました。移設した界壁は短手方向の壁量が不足しがちな長屋で、耐力壁を確保できる構造面でのメリットにもなっています。

また、北側の下屋部分を減築して共有の庭空間を設けました。建物全体に回遊性をもたらすと同時に、町との接点としてのオープンスペースとなることを期待しています。

地域のランドマーク的に存在した三角屋根の洋風長屋。オーナーの「この長屋を残したい！」という思いに応えて設計を進めたプロジェクト。工事中やリノベーション後も、町の人から「残してもらって良かった」という声を聴き、町の風景をつなげられた意義も感じています。

